

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/角缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け PN-1ローラー（大塚刷毛製）
 + 押えローラー

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマー スーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り塗り後、PN-1ローラーで斜め方向にクロスさせ、引起こし、更に、塗シンを付けた押えローラーで押え、意匠形成する。					追っかけ 模様付け	PN-1ローラー + 押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

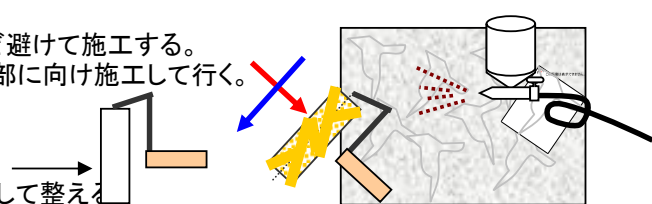
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を配り塗りする。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様配り塗り後、アヤメローラーで材料を引起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ② パターンは、特に希釈量やアヤメローラーの転がし角度などにより仕上がり感が多少異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、ランダムに花の咲いたイメージの意匠。
- ⑥ 押えは、強く押え過ぎないようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。